

令和2年度 学校評価アンケート集計結果

相馬支援学校長

1 重点目標について

育成を目指す資質・能力を明確にし、各教科等における系統性、学びの連続性を重視した授業を展開する。

※ 本校では相馬支援学校の育成を目指す資質・能力を明確にし、それを具現化するための学校目標を掲げている。

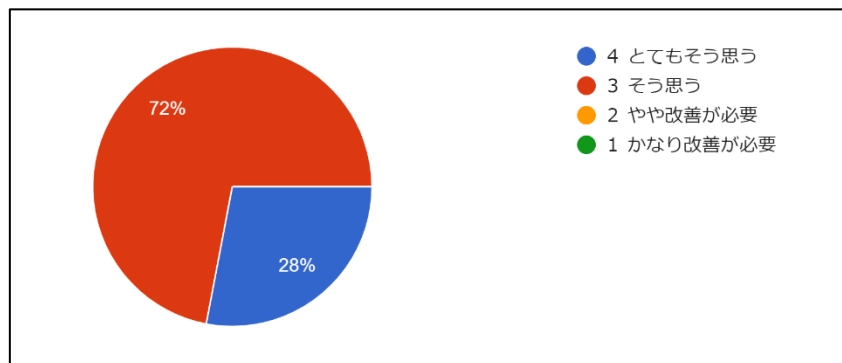
2 学校経営について

(1) 学校経営運営ビジョンについて

<質問項目>

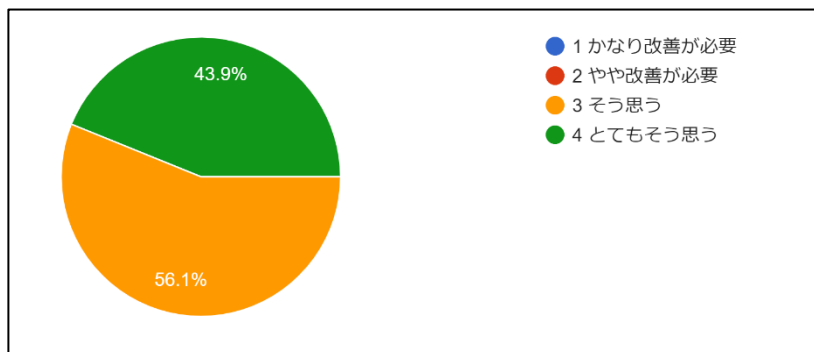
教員

学校経営・運営ビジョンの内容を理解し、人事評価の目標設定と関連させ、日頃から教育活動を行っている。



保護者

学校は学校経営・運営ビジョン、教育目標、教育活動をわかりやすく伝えていますか。



<分析>

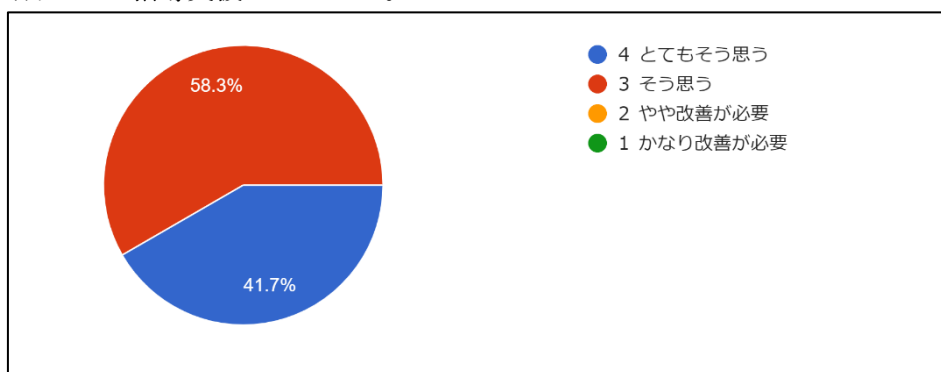
ほとんどの教員、保護者が4、3の回答となっている。教員においては、人事評価の期首面談において、自己目標と学校経営・運営ビジョンとの関連を確認した取組が成果をあげているのではないかと推測する。また、保護者においては、新型コロナウイルス感染症の影響で、PTAの全体会等での学校経営・運営ビジョンを周知する機会が少なかったが、授業参観ガイド等により周知することができたのではないかと考える。今後もこうした取組を進めていきたい。

(2) 一人一人を大切にしたい指導支援について

<質問項目>

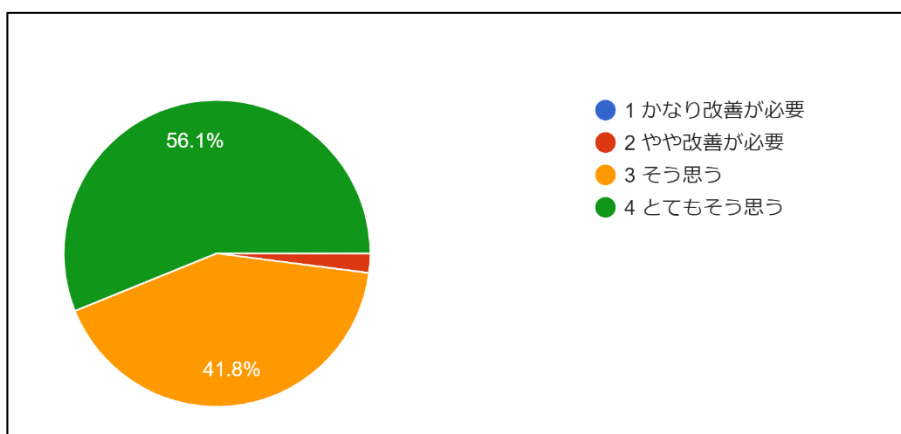
教員

学級、学年、学部等の教職員や、保護者、関係機関と連携し、児童生徒一人一人を大切にしたい指導支援をしている。



保護者

学校は、教職員、保護者、関係機関と連携し、児童生徒一人一人を大切にしたい指導支援をしていますか。



<分析>

ほとんどの教員、保護者が4、3の回答となっているが、保護者の方から、放課後デイとの連携で3者面談が実施できないかとの提案があった。また、関係機関のアン

ケートにおいても、放課後デイ等との連携強化を期待する声が上がっている。現在、市町村で作成配布している相談支援ファイルや学校が主となって作成している「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」、放課後デイ等が作成している「個別の支援計画」があるが、そうしたツールを連携のツールとして有効活用しきれていない状況がある。これは、これからの市町村における児童生徒の支援体制という視点で考えれば、学校と保護者、学校と関係機関という構図ではなく、市町村のシステムの中での連携が大切であると考えている。これらのシステム構築は、学校だけの取組だけでは困難なため、地域自立支援協議会等に話題提供をしながら、市町村でのシステム作りを促していきたい。

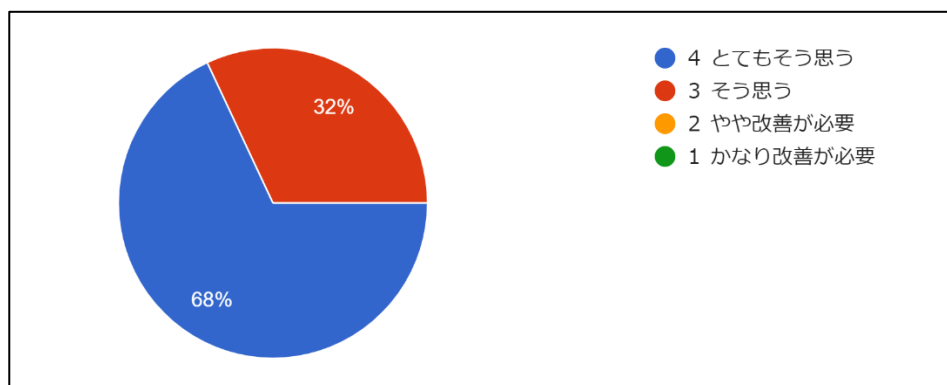
3 安心・安全について

(1) 校舎内外の安全確認について

<質問項目>

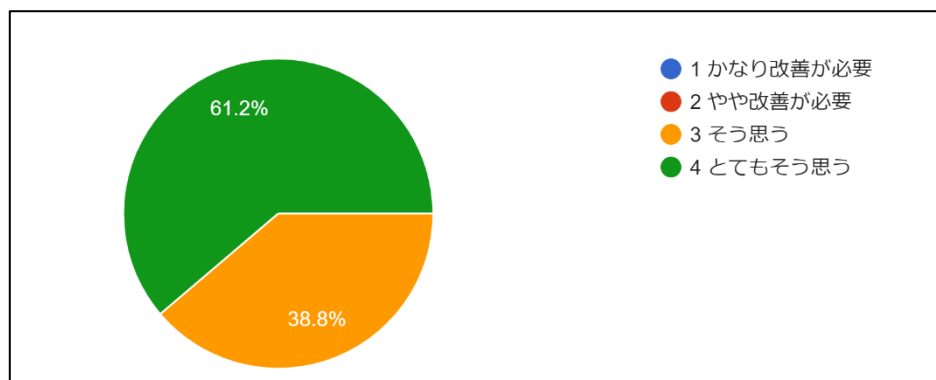
教員

校舎の内外、教室等の環境整備に努め、異常箇所があれば速やかに管理職に報告をしている。



保護者

学校は、校舎の内外、教室等の環境整備に努めていますか。



<分析>

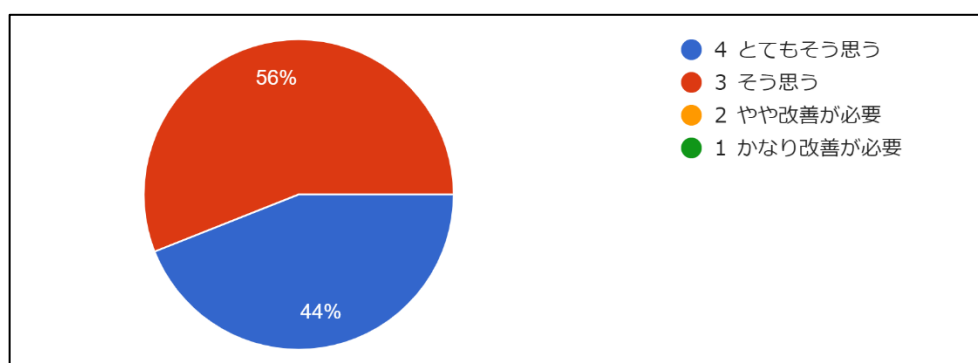
ほとんどの教員、保護者が4、3の回答をしている。校舎が新しくなり施設設備は以前よりも充実していると考え。一方新しい施設の管理や備品や教材等の管理を一層徹底し、未永く、新校舎を大切に維持していきたいと考える。

(2) 服務倫理委員会について

<質問項目>

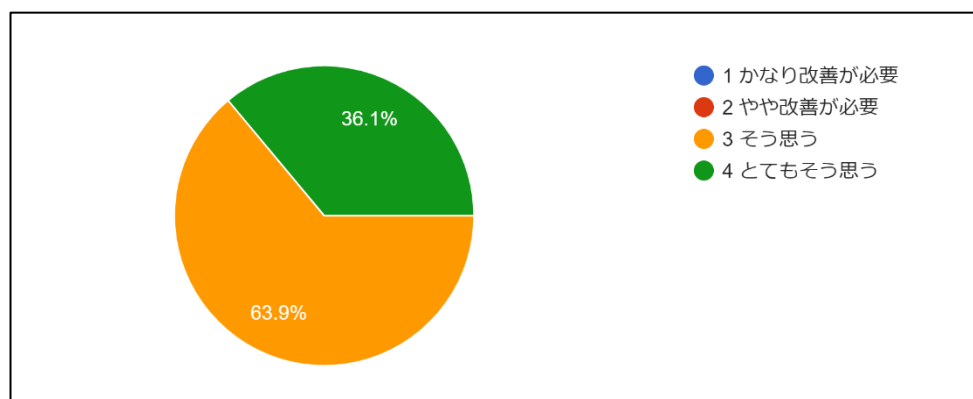
教員

服務倫理委員会や全体研修会に参加し、注意喚起をされた内容や研修内容の振り返りをし、日々高い倫理意識をもつようにしている。



保護者

学校は、服務倫理委員会や全体研修会を実施し、不祥事根絶に向けた努力をしていますか。



<分析>

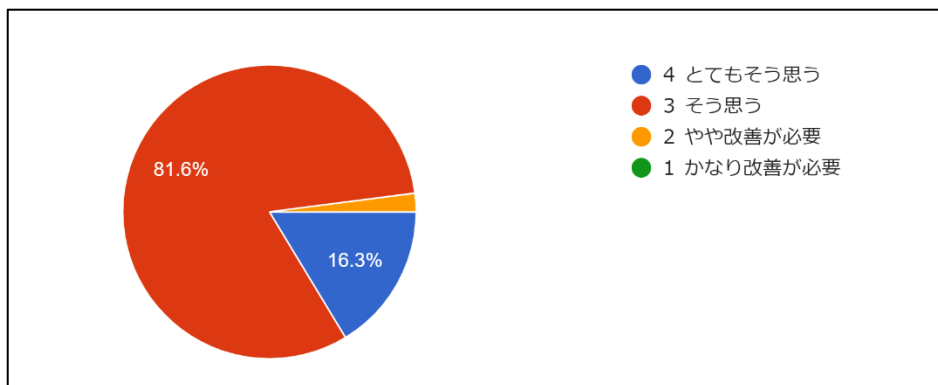
ほとんどの教員、保護者が4、3の回答をしている。今年度は、イントラネットを利用して、県職員や教職員の不祥事等の報道について情報提供や注意喚起を数多く行っている。また、これまでに2回の研修会や月に一度の職員会議では、時間をとって、様々な事例の検討や振り返りを行ってきた。今後も十分に時間をとり、服務倫理活動を行っていききたいと考える。

(3) 自然災害等における危機管理について

<質問項目>

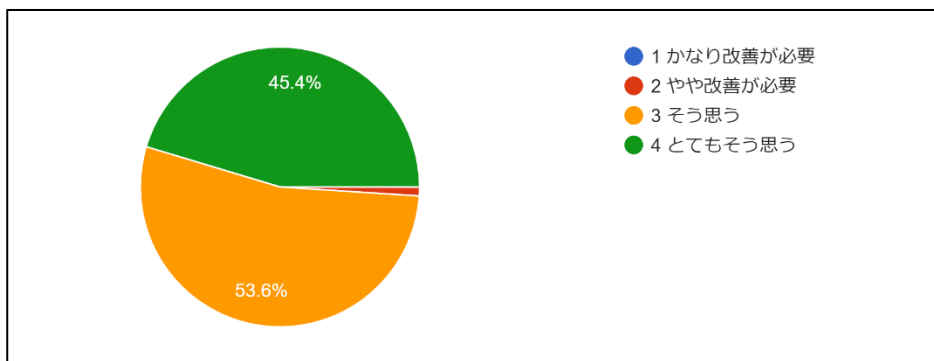
教員

様々な事態（自然災害等）を想定し、日頃から危機管理マニュアル等の内容を確認している。



保護者

学校は、様々な事態（自然災害等）を想定した態勢を構築し、必要な情報提供等を行っていますか。



<分析>

ほとんどの教員、保護者が4、3の回答をしている。教員の中には、今年度大幅に内容を見直した不審者対応訓練等の実施後の振り返りやアナウンスを期待する声もあった。これについては、今後生徒指導部を中心にマニュアルの見直しとその周知について進めていきたい。保護者からは情報発信について、不満を感じている意見もあった。PTAでの活動内容を工夫したり、ホームページ等を活用したりしながら、適宜、情報発信に努めていきたい。また、各市町村の地域自立支援協議会では災害対策のワーキンググループでの話し合いが行われている。今後、災害対策における情報等が明確になった際には、速やかに情報提供をしていきたい。なお、保護者の

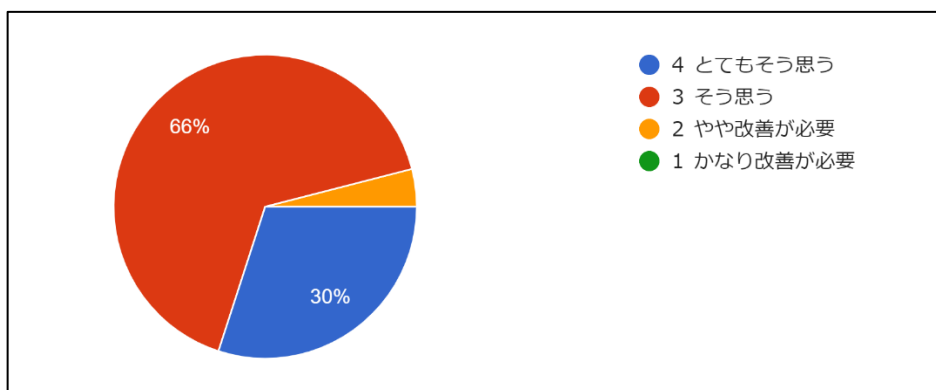
方には、市町村からの情報についてアンテナを高くしていただくように促していきたい。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策について

<質問項目>

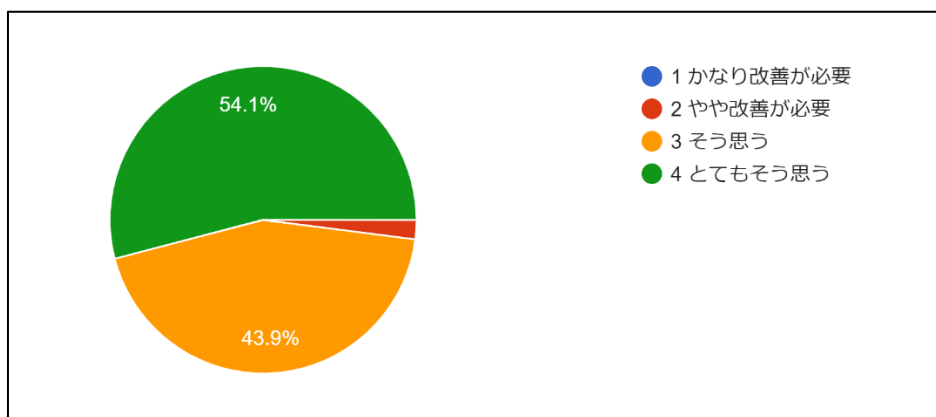
□ 教員

県から出されている通知文の内容を知り、新しい生活様式を意識して、日頃から新型コロナウイルス感染症対策を万全にして、学習活動に取り組んでいる。



□ 保護者

学校は、新型コロナウイルス感染症対策を万全にして、学習活動を実施していますか。



<分析>

ほとんどの教員、保護者が4、3の回答をしている。教員の中には、新聞報道等から社会的な緩みを感じ、日々緊張感を持つような努力をしている記載等があった。また、保護者からは通学バスでの児童生徒のマスクの着用についての記載があった。今はまだ、新型コロナウイルス感染症については、収束されていない現状である。国や県から発出している通知文やマニュアルに沿って、今後とも十分な対策を講じていきたい。

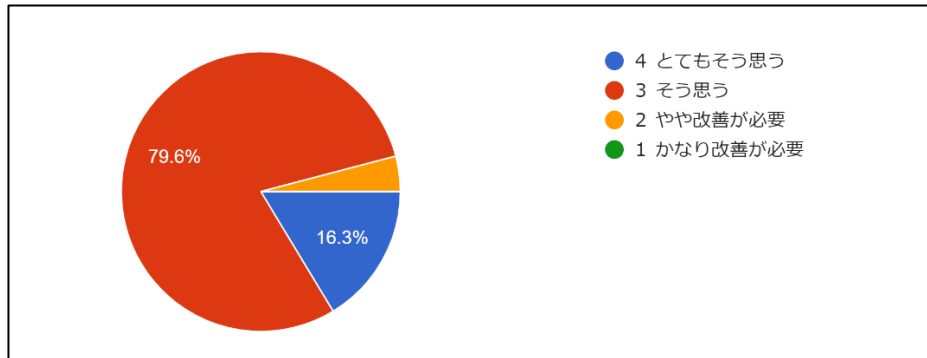
4 進路指導の充実について

(1) 「進路の手引き」を活用した進路相談について

<質問項目>

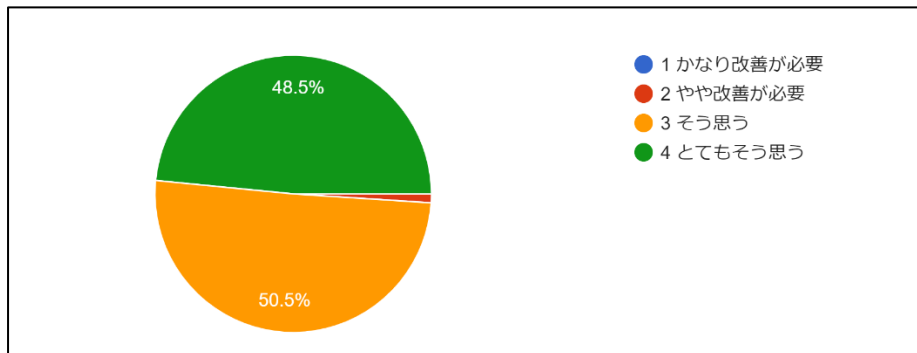
教員

学級懇談や個別懇談等で「進路の手引き」を活用した進路相談を行っている。



保護者

学校は、「進路の手引き」を活用した進路相談を行っていますか。



<分析>

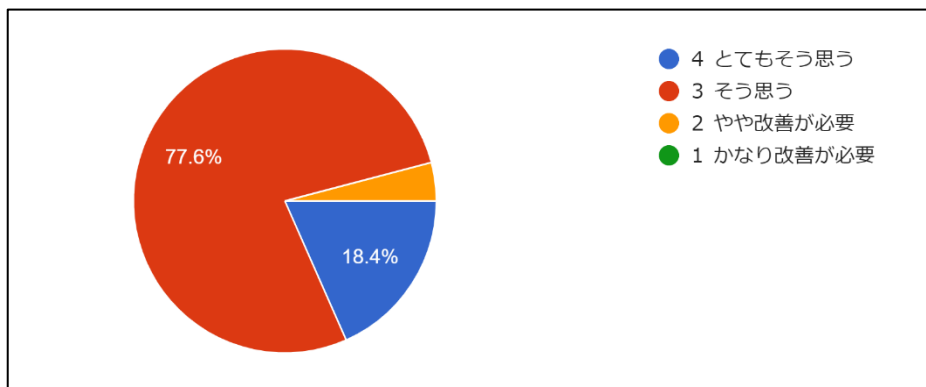
ほとんどの教員や保護者が4、3の回答をしている。教員の中には、「進路の手引き」を活用した進路相談のより一層の周知や、「進路の手引き」の内容についての見直し等の記載も見られた。また、保護者については、小学部段階での進路の見通しが持ちづらい様子も覗えた。進路の手引きを作成し2年を経過しているので、教員や保護者に対して、「進路の手引き」の内容の周知や内容の見直しについても検討を進めていきたい。

(2) キャリアガイダンスシートの活用について

<質問項目>

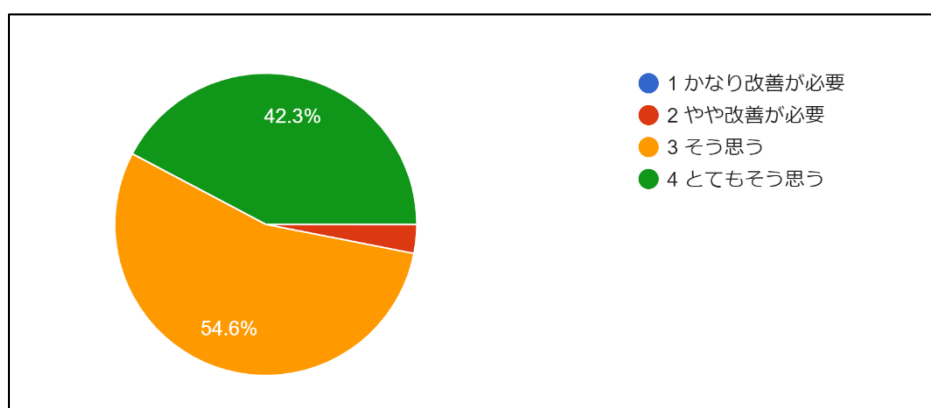
教員

本人や保護者との面談等でキャリアガイダンスシートを活用した進路指導や進路相談を行っている。



保護者

学校は、お子さんの将来についての指導支援について、キャリアガイダンスシートを活用して説明を行っていますか。



<分析>

ほとんどの教員、保護者は4、3の回答をしている。また3の回答が非常に多い。このことについては、今年度、新たな取組であったために、教員や保護者に戸惑いが見られたのではないかと推測する。教員の中には、ガイダンスシートも文言の説明に苦慮したとの記載もあった。保護者の中には、ガイダンスシートの文言についての理解が難しいとの記載もあった。今後は、再度ガイダンスシートの活用の意義、意味の理解を進めていきたい。キャリアガイダンスシートは、児童生徒の将来について、またその将来から見た現在の状況の確認をするためには、大変有効なツールであると考え。十分にキャリアガイダンスシートの必要性やその意義・意味を周知しながら、効果的な活用を促していきたい。

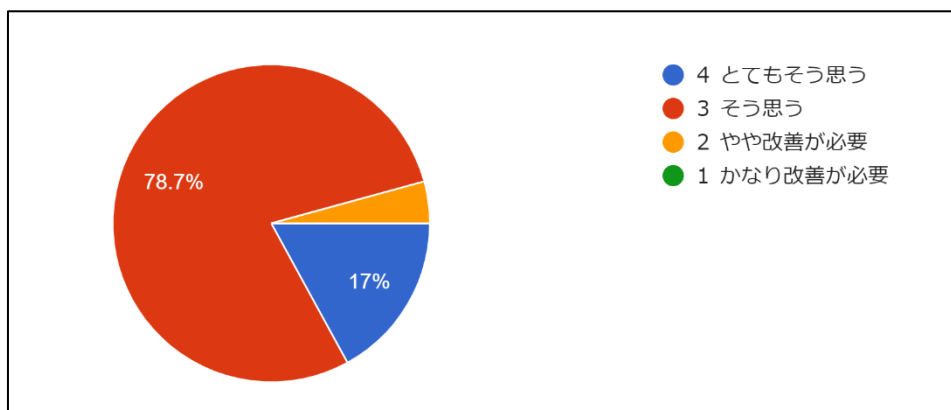
5 学習指導の充実について

(1)教育課程の説明について

<質問項目>

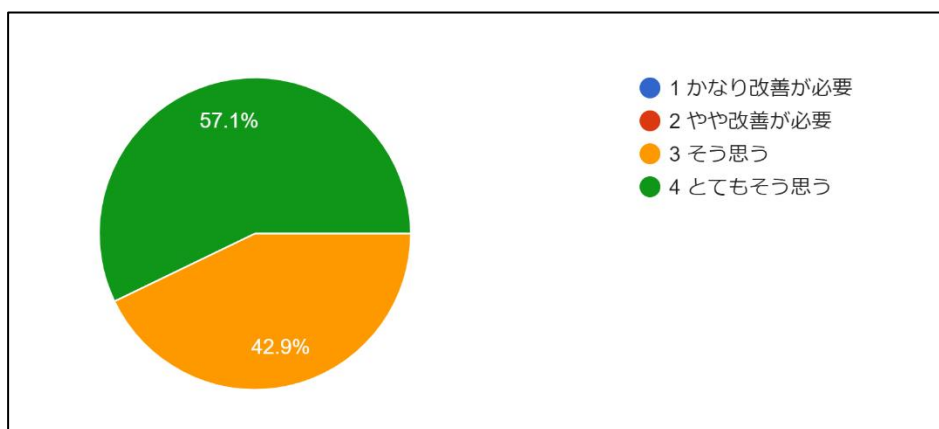
教員

保護者や本人に個別懇談や学級懇談等で、児童生徒が履修している教育課程について説明をしている。



保護者

教職員は、お子さんの履修している教育課程について説明を行っていますか。



<分析>

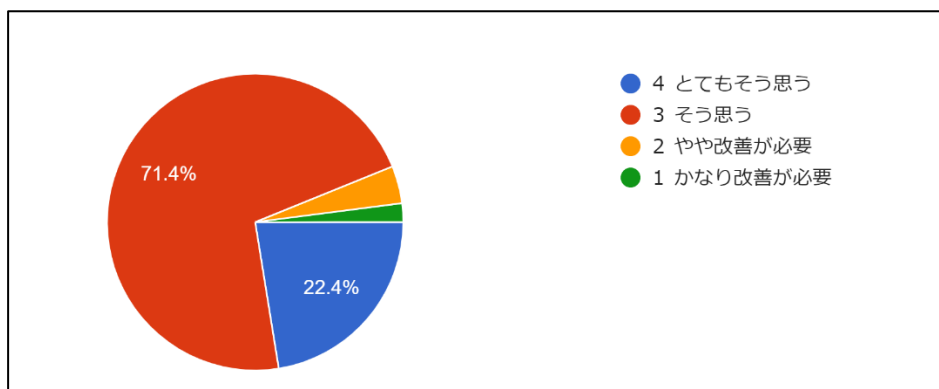
ほとんどの教員、保護者は4、3の回答をしている。本校では、昨年度に「新しいカリキュラムを創造するプロジェクトチーム」を立ち上げ、教育課程の編成については抜本的な見直しを行った。そして、全員参加の教育課程の編成を実施し、校舎の3カ所と職員室、校長室には「相馬支援学校の育成を目指す資質・能力」を掲示し、常に学校目標等を確認できるような環境を作った。その成果として、教職員の教育課程への理解については、昨年度よりも高まっているのではないかと推測する。また、教員を媒介にしながら、保護者への理解も進んでいるのではないかと考えている。

(2) 単元、授業内容や評価の周知について

<質問項目>

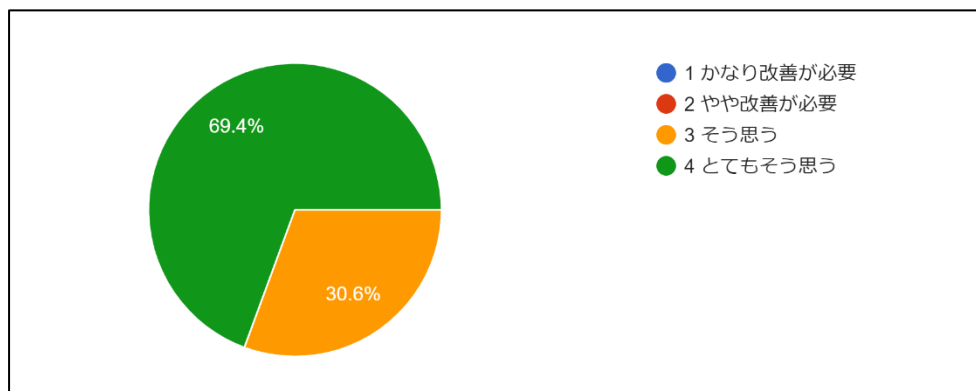
□ 教員

単元で各教科等の指導目標を明確にし、他教科等の関連を意識した「単元案」を作成または共有して、授業を行い、複数の教員で学習評価を行っている。また、それらのプロセスを経て、授業参観ガイドや通知表を作成することができた。



□ 保護者

教職員は、お子さんが学んでいる「単元」についての目標、単元で身につけさせたい力、学習評価について授業参観ガイドや通知表、個別の指導計画等で伝えていますか。



<分析>

ほとんどの教員、保護者は4、3の回答をしている。その中で保護者の4という回答が占める割合が多い。授業参観時に作成配布している「授業参観ガイド」や学期末の配布している「通知表」の効果が大きいのではないかと考える。我々が使っている「単元案」「個別の指導計画」は、教員や関係機関向けの言葉が多く使われ、専門用語も多い、それに比べ「授業参観ガイド」「通知表」は保護者や児童生徒向けに作られたものであるため、学校での取組がわかりやすいのではないかと推測する。

教員については、保護者や本人に向けて作成することで、少し負担感もあったので

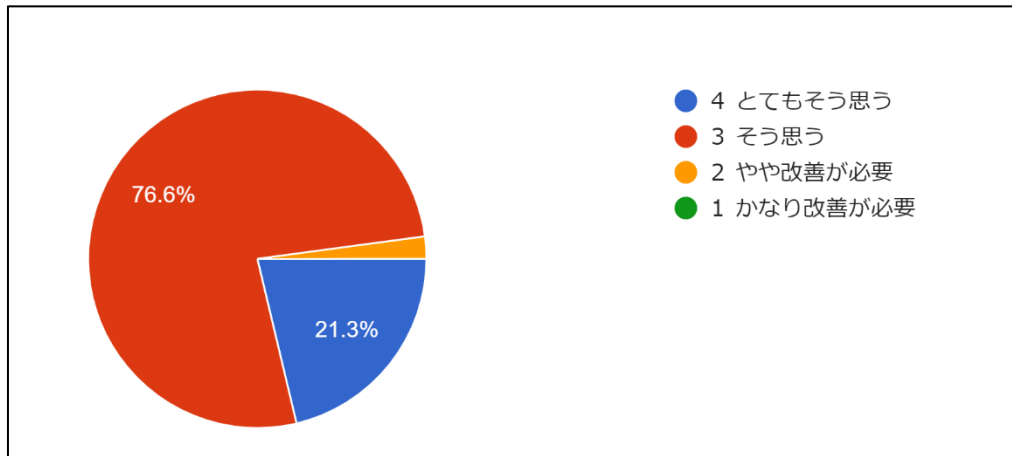
はないかと考えている。しかし、学校での取組が本人、保護者に十分に伝わるツールであることや、保護者、本人の満足感などを伝えることで、取組の成果を伝えていきたい。また、「単元案」の取組については、外部講師や、教育委員会等から高い評価を受けている。特に、この取組を論文としてまとめ、教職員論文に応募したところ「特選」を受賞した。教員には今後改めて取組の成果を伝え、今後の活動を一層促進させていきたい。

(3) 同僚性を大切にした研修について

<質問項目>

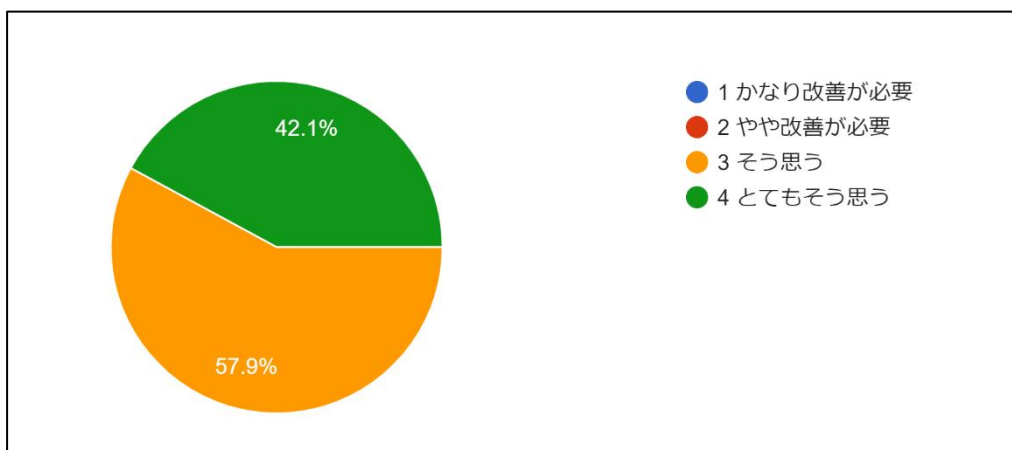
教員

積極的に単元研究会に参加し、同僚性を大切にした協議を行い、自分が行っている単元計画の見直しや評価を行っている。



保護者

教職員は、日々の授業力向上のために、同僚性を大切にした研修等に励んでいますか。



<分析>

ほとんどの教員が4、3と回答している。「単元研究会」に参加する教員の数が増えてきている。授業提供役やファシリテーター役で参加する教員が多く、昨年度よりも多くの教員が研修会に参加しており、教員の主体性を感じている。教員の数値が高いのはそのためと考える。保護者の中には、教員の研修内容について、より具体的に知りたいとの記述も見られた。今後は、研修内容やその成果等も発信に努めていきたい。

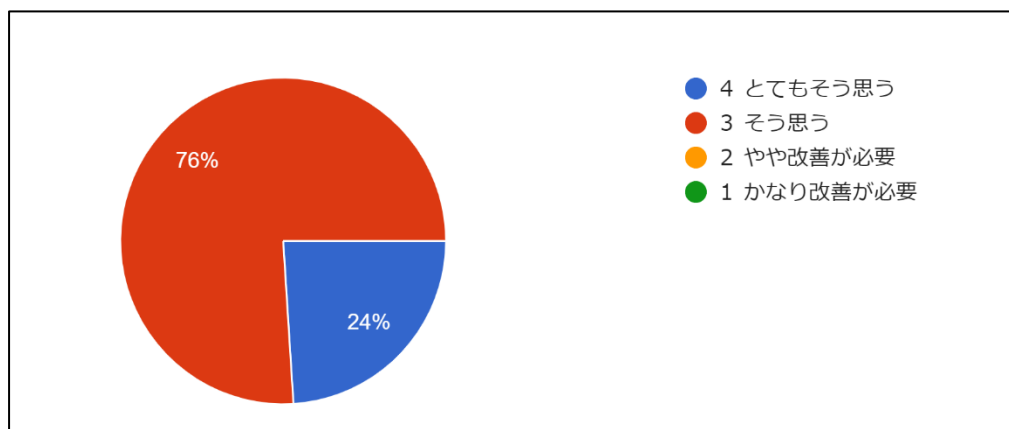
6 生徒指導の充実について

(1)児童会生徒会活動について

<質問項目>

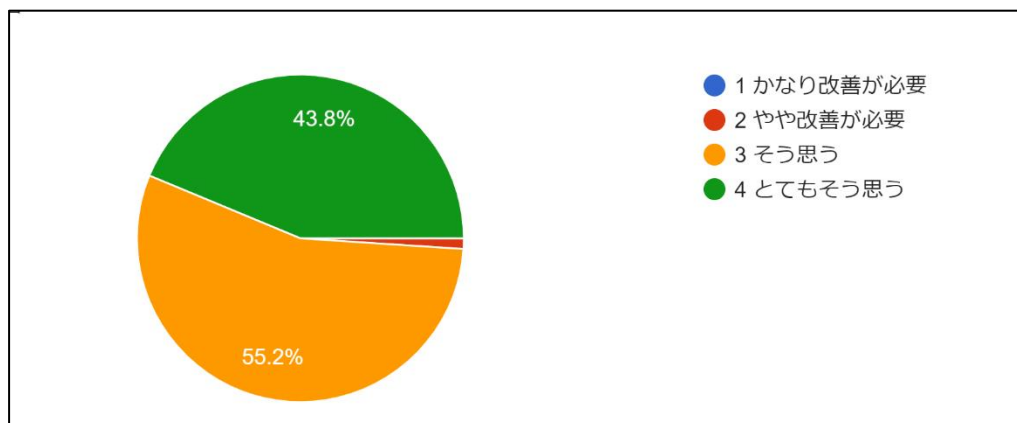
教員

児童会生徒会活動の目的や指導内容を理解し、生徒指導部や学部の教職員と連携し、組織的に児童生徒の自主性や規範意識の育成を行うことができた。



保護者

学校は、児童会生徒会活動を充実させ、児童生徒の自主性や規範意識の育成に努めていますか。



<分析>

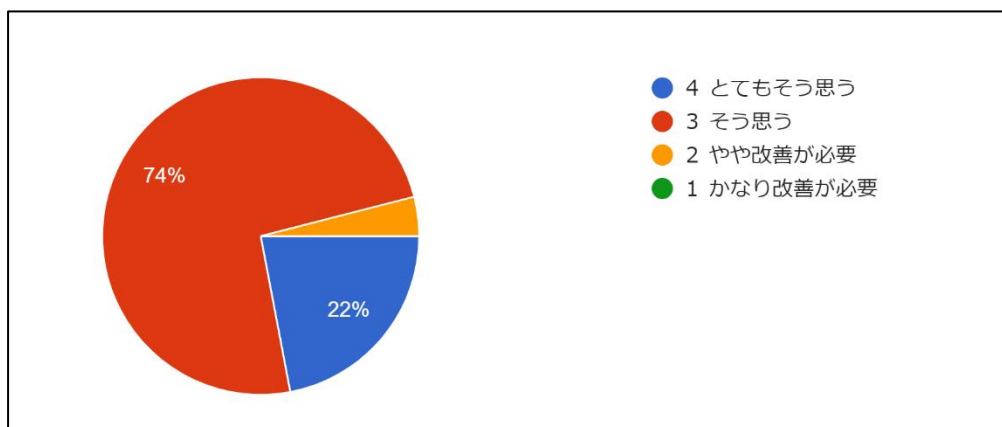
ほとんどの教員や保護者が4、3で回答している。保護者の中には、「新型コロナウイルス感染症の影響で児童会生徒会活動が少なくなっているのではないか」と心配の声があったが、学校では、生徒指導部を中心にコロナ禍の中、指導内容やリモート等 ICT を取り入れ運営の仕方を工夫してきた。また、生活年齢に応じた集会の在り方についても見直しを行ってきた。今後も検討を重ねながら、児童生徒の自主性や規範意識の育成に努めていきたいと考える。

(2)生徒指導上の課題への対応について

<質問項目>

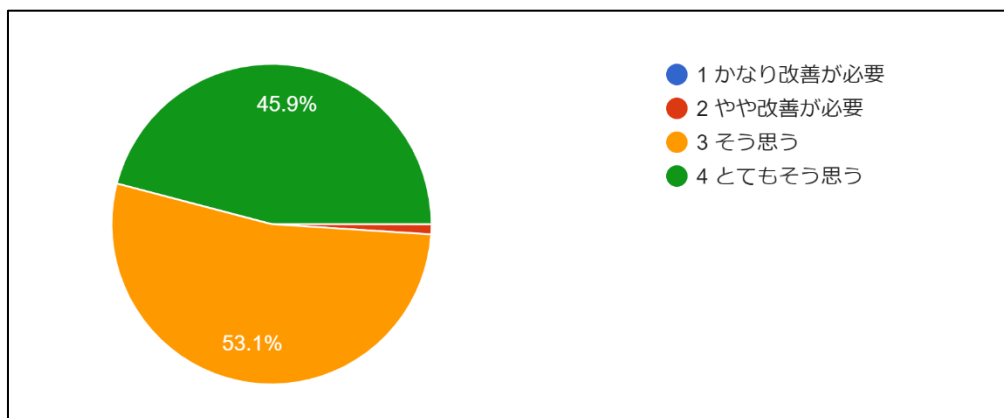
教員

生徒指導上の課題（SNS、いじめ、性に関するもの等）に関して、生徒指導部と連携しケース会議や支援会議を積極的に実施し、複数の教員や関係機関と連携し問題行動の未然防止につなぐことができた。



保護者

学校は SNS、いじめ、性に関する課題に関して、丁寧に指導支援を行っていますか。



<分析>

ほとんどの教員や保護者が4、3の回答をしている。教員の中には、児童生徒の生徒指導上の問題行動や対応について共有などに課題を感じている記載もあった。問題行動の中身によっては、デリケートなものもあるため、周知が難しいものもあるが、今後検討をしていきたい。また、保護者からは、性に関する指導の充実を求める記載があった。この取組についても今後、組織的に対応できるようにしていきたい。

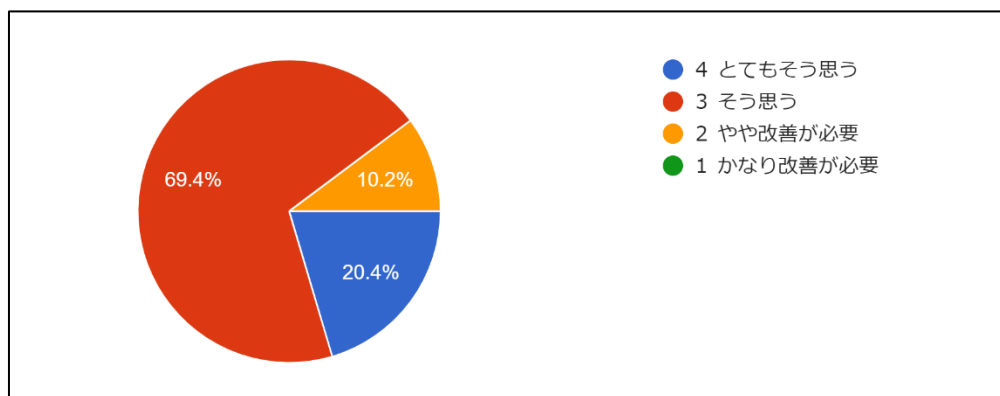
7 保健指導の充実について

(1) 肥満指導、運動週間、食習慣の改善について

<質問項目>

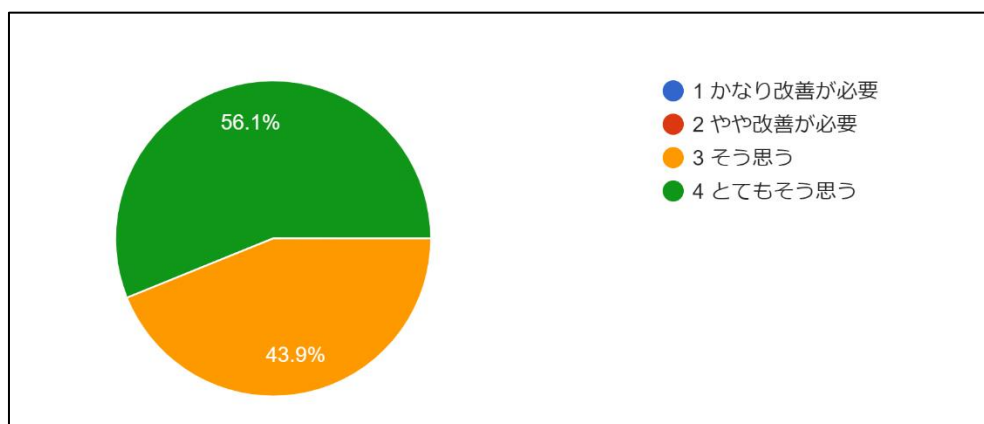
教員

家庭や保健部と連携して継続的な肥満指導、運動習慣、食習慣の改善を行うことができた。



保護者

学校は家庭と連携して継続的な肥満指導、運動習慣、食習慣の改善に努めていますか。



<分析>

ほとんどの保護者は、4、3の回答しているのに対し、教員は2と回答している者

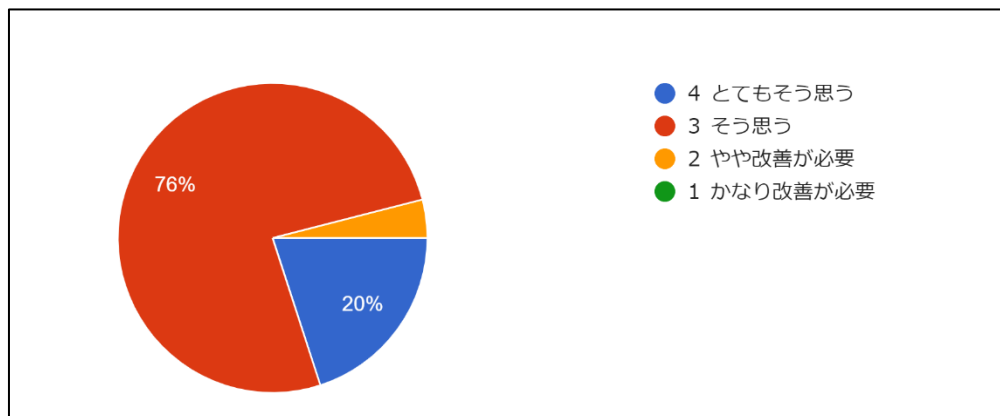
の割合が他の項目よりも多くなっている。教員は、実際の肥満指導、運動習慣、食習慣の改善に難しさを感じている傾向がある。また、実際に家庭との連携の難しさや効果が出ていないことに課題を感じている教員の記載もある。これらの指導は、学校だけの指導では、本質的な改善が難しく、家庭との連携が必須であり、児童生徒の健康にとっては、基礎基本と考える。特に、間もなく社会参加自立に向かう高等部の生徒にとっては、喫緊の課題である。再度取組についての検証と今後の改善策についての検討が必要と考える。

(2) スクールカウンセラーを活用した教育相談について

<質問項目>

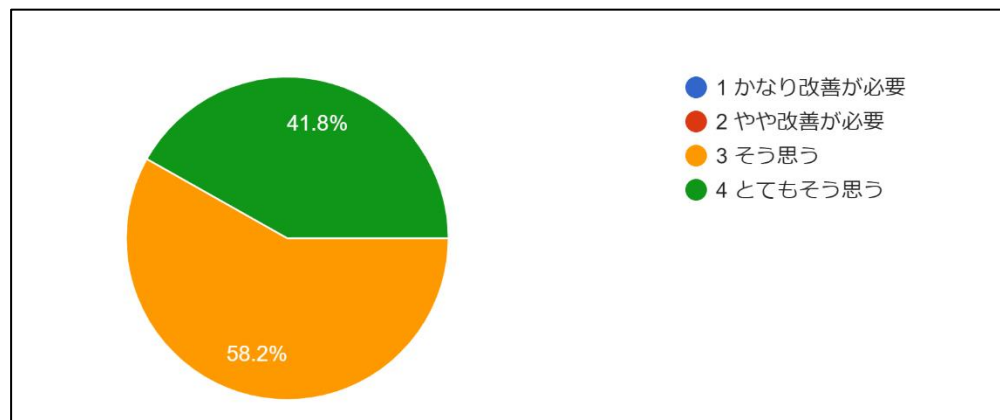
□ 教員

スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制を活用し、家庭生活や学校生活では気づきにくい児童生徒の新たな側面を確認し、児童生徒理解につなげることができた。



□ 保護者

学校はスクールカウンセラー等を活用した教育相談体制を充実させ、心と体の健康づくりに努めていますか。



<分析>

ほとんどの教員や保護者は4、3と回答している。教員の一部には、スクールカウンセラーのカウンセリング後の対応について課題を感じている者もいる。スクールカウンセラーとの連携を密にし、カウンセリング後の内容を分析し、守秘義務を徹底して、より一層の児童生徒理解の充実に努めていきたい。

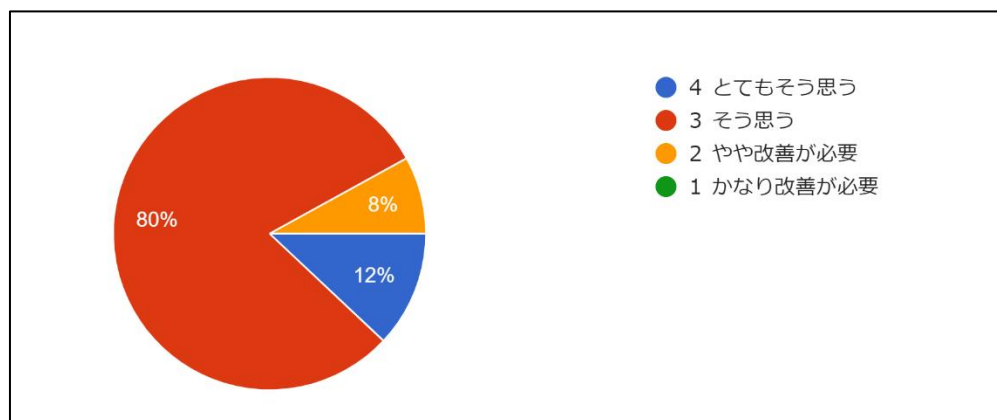
8 地域支援の充実について

(1) 地域の教育、福祉、医療、行政等との連携について

<質問項目>

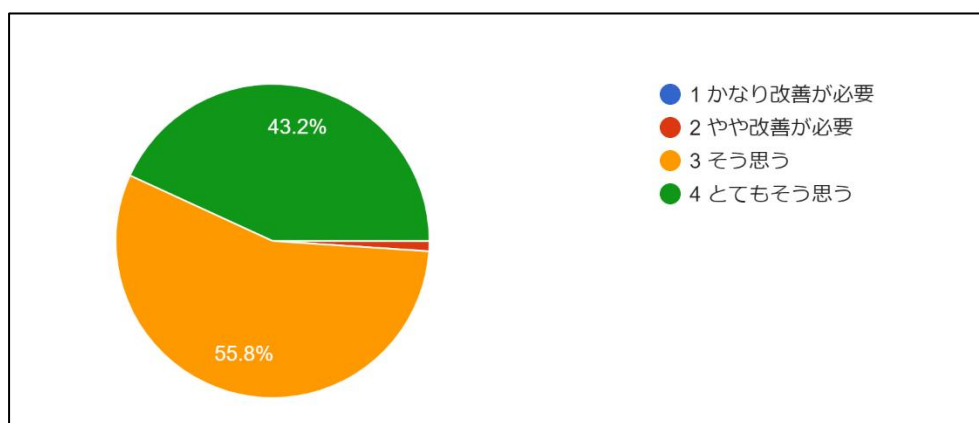
教員

地域の自立支援協議会等の情報を共有し、地域の教育、福祉、医療、行政等の取組や課題を意識することができた。



保護者

学校は、地域の自立支援協議会等に積極的に参加し、地域の教育、福祉、医療、行政等と協議を重ね、連携を密にしていますか。



<分析>

ほとんどの教員や保護者は4、3と回答している。しかし、少数ではあるが、2と回答している教員、保護者もいる。自立支援協議会等の議題や話し合いの内容につ

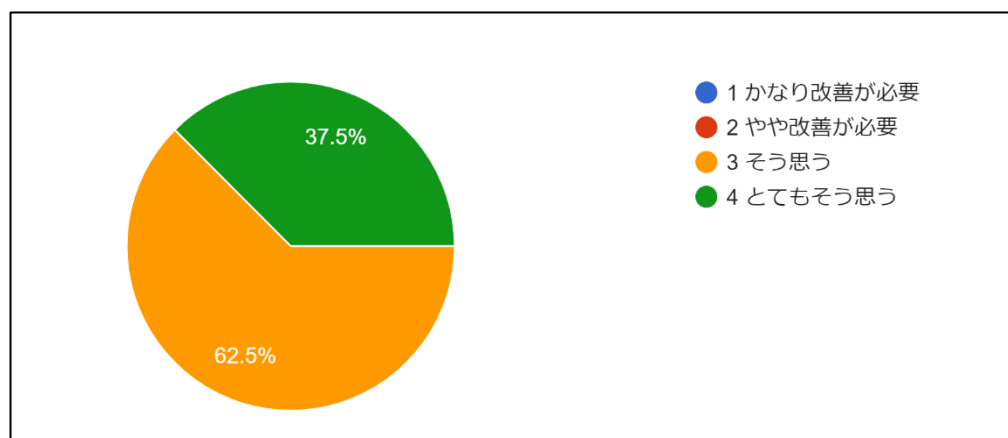
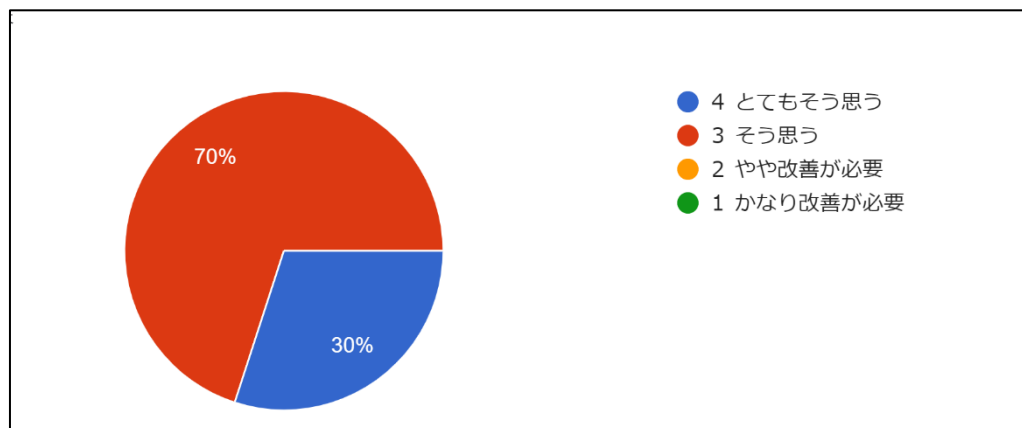
いては、公開できるものについては積極的に発信する必要があると考える。今後、情報発信について、地域の自立支援協議会等にも働きかけていきたい。

(2) 幼稚園、小中学校、高等学校への支援について

<質問項目>

□ 教員、保護者

学校は、研修会やセミナーを実施し、地域の幼稚園、小中学校、高等学校における指導支援の充実に努めていますか。



<分析>

ほとんどの教員や保護者が4、3と回答している。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、実際に訪問しての指導支援が少なかった。また、研修会やセミナーについては、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じて実施をした。参加された方々からは、充実した内容だったというアンケート結果が得られた。今後も、教育事務所の担当指導主事と連携し、地域のニーズや課題に応じた指導支援ができるように努めていきたい。

9 関係機関のアンケート集計結果について

(1) アンケート項目について

関係機関のアンケートについては、連携をテーマとして質問項目を設定した。連携のポイントは、「相談支援ファイル」「個別の支援計画」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「合理的配慮」「危機管理」とした。

(2) アンケート結果

質問項目	1	学校は営家機関と十分に連携をして、児童生徒の教育に努めている			
回答		4：とてもそう思う	3：そう思う	2：やや改善が必要	1：かなり改善が必要
回答数			3	2	
改善案		○保護者の了解のもと、放課後デイや学校との連絡帳を確認できるようにする。 ○情報交換の回数を増やす。			
質問項目	2	児童生徒の課題については積極的に支援会議を開催し、関係機関と協力し課題解決に努めている			
回答		4：とてもそう思う	3：そう思う	2：やや改善が必要	1：かなり改善が必要
回答数		1	2	1	1
改善案		○障害福祉サービスについては、相談支援員が主となり開催してもよいのではないかと。			
質問項目	3	相談支援ファイルを活用し、保護者から学校で作成・活用している「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の情報提供がなされている。			
回答		4：とてもそう思う	3：そう思う	2：やや改善が必要	1：かなり改善が必要
回答数			1	2	2
改善案		○学校や事業所から保護者に「個別の支援計画」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の提示等の働きかけをする。			
質問項目	4	個別の教育支援計画に記載している合理的配慮の内容を確認、共有している。			
回答		4：とてもそう思う	3：そう思う	2：やや改善が必要	1：かなり改善が必要
回答数		1	1	1	2
改善案		○事業所が、学校で作成している「個別の教育支援計画」を確認しやすいようにする。			

質問項目	5	様々な事態（自然災害等）を想定して、日頃から学校と危機管理等の内容を共有している。			
回答		4：とてもそう思う	3：そう思う	2：やや改善が必要	1：かなり改善が必要
回答数			1	1	3
改善案	○これまで、行ったことがないので今後学校と事業所で確認できるように検討していきたい。				
質問項目	6	日頃から学校と連携し、新しい生活様式を含めた新型コロナウイルス感染症対策を共有している。			
回答		4：とてもそう思う	3：そう思う	2：やや改善が必要	1：かなり改善が必要
回答数			2	1	2
改善案	○これまで、行ったことがないので今後学校と事業所で確認できるように検討していきたい。				

(3) 分析

放課後デイ等との連携について、学校では夏季休業中での情報交換会であったり、必要があれば支援会議も行ったりとしている。しかし、これまで、障がいのある児童生徒や保護者を中心とした具体的な連携については踏み込んでいなかったと考える。今回、アンケートの質問項目では、連携の内容を探るために、連携ツールとしてこれまで市町村の特別支援教育体制整備では、重要視されてきた「相談支援ファイル」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成活用について、「合理的配慮」を踏まえた人権尊重、安心安全を担保するための「危機管理」にいたるまで具体的な連携の内容に迫ってみた。評価については、2、1と回答をしている放課後デイも多かった。この結果を、3点にわたって分析をした。

1点目は、連携のツールとして作成してきた「相談支援ファイル」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用についてである。本来、本人や保護者を中心とした包摂したネットワークを構築するための連携ツールであるべきものが、それぞれの機関と本人・保護者間だけの連携ツールになってしまい、関係機関がそれぞれの目的で、指導・支援をしている現状だったのではないかと推測する。このような状況では「地域で共に学び、共に生きる」を目指した共生社会の形成にはつながらないと考える。今後は、本人や保護者を包摂したネットワークを意識しながら、それぞれの機関で作成した「個別の支援計画」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等を共有する機会を設けていきたいと考える。

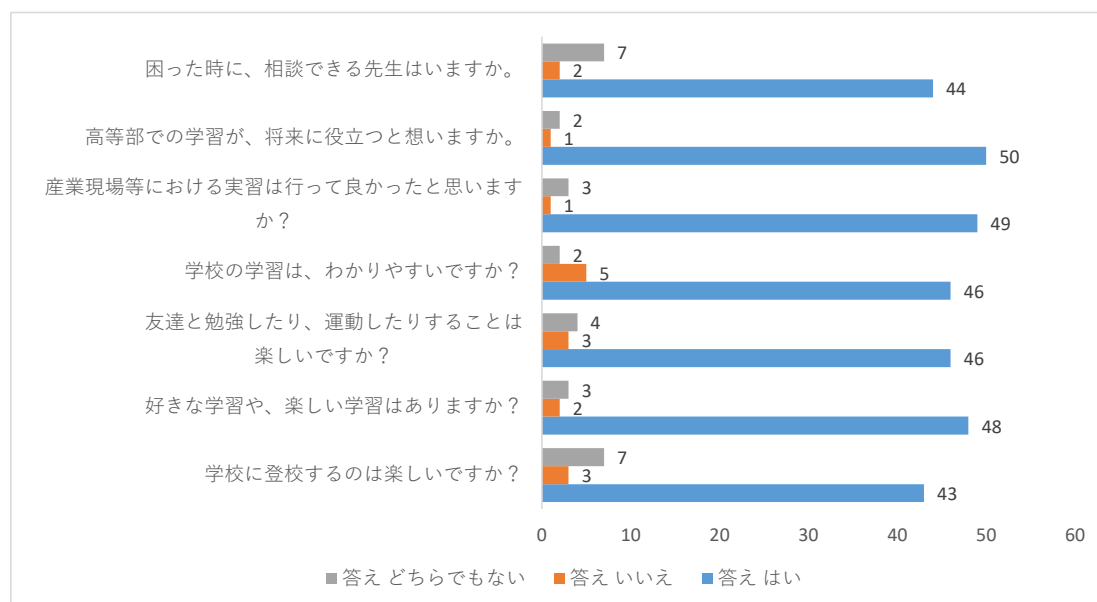
2点目は、児童生徒の人権尊重を支える「合理的配慮」の確認と実行である。今回のアンケートにおいて、各関係機関が児童生徒の「合理的配慮」について、確認と実行が不十分だったということが覗えた。今後は、児童生徒が地域で過ごす時に、不利益を被らないように、各関係機関で児童生徒の「合理的配慮」を確認し、実行できるような体

制づくりを考えていきたい。

3点目は、不測の事態における危機管理である。児童生徒の生活環境を考えると家庭、関係機関、学校だけで生活している状況ではない。それぞれの場面で、どのような危機を想定し、切れ目のない支援を継続していくことができるかが課題と考える。東日本大震災の際には、学校から家庭への引き継ぎや放課後デイから家庭への引き継ぎや安否確認等などが課題だった。また、現在が新型コロナウイルス感染症の対策においても、各関係機関での対応について、確認を行うことも必要ではないかと考える。学校と関係機関だけではなく、地域自立支援協議会とも連携をとりながら、危機管理を共有していきたい

10 高等部生徒のアンケート集計

<アンケート集計結果>



<分析>

ほとんどの生徒は、「はい」の回答で、充実した高等部生活を送っていることが覗えた。特に「高等部での学習が、将来に役立つと思いますか。」の項目では、実に50人もの生徒が「はい」と回答していた。高等部のカリキュラムにおいて社会参加自立を大切にしている部分が生徒の思いにつながっているのではないかと考える。一方、「学校の授業は、わかりやすいですか。」の項目では、5名の生徒が「いいえ」と回答している。個の教育的ニーズに寄り添い、一層わかりやすい学習環境や教材教具の工夫を進めていきたい。自由記述からは、「理科の授業を導入し、実験や研究をしたい」「プログラミングの勉強がしたい」等知的な好奇心に関わる内容の記載が多く見られた。生徒のこれまでの「学びの履歴」や中学校や中学部での学びの連続性に配慮したカリキュラムマネジメントの重要性が高まっていると考える。また、気になる項目では、「困った時に相談できる先生はいますか。」が

挙げられる。9名の生徒が「いいえ」「どちらでもない」を回答している。また、自由記述からは「相談ができる学校にしたい」という記載もあった。生徒の「困り感」を察知しながら、高等部生活をより充実させるためにも、教員のカウンセリングマインドを高めていきたい。

11 全体を通して

今回の教員、保護者からのアンケートでは全ての項目で、4、3の回答がほとんどだった。これは、学校の取組が一定の評価を得られたのではないかと考えている。特に、学校経営・運営ビジョンの周知と実行については、組織的に取り組めたと考える。その中において、学習指導の充実においては、研修部が中心となり、教員の同僚性と専門性を大切に、日々の授業を「単元」としてのまとまりを考え評価をし、他教科等との関連をはかりながら実施したカリキュラムマネジメントの成果が評価されたのではないかと推測する。また、教務部が中心となった、全員参加の教育課程の編成作業がこれらの取組を支えていたと考える。高等部の生徒のアンケートでは、知的好奇心についての思いも記載されていた。カリキュラムマネジメントをより一層加速させ、「学びの履歴」「学びの連続性」を大切にしたい指導支援を行っていききたいと考える。

生徒指導、進路指導、保健指導では、それぞれの取組に対して、一定の評価が得られたものの、これまでの取組の検証や振り返りを行い、改善策を検討しながらさらなるブラッシュアップが期待されている。また高等部生徒のアンケートでは、「困った時に相談できる先生がいますか。」の質問に数名の生徒は「いいえ」「どちらでもない」で回答していた。今後は、教員のカウンセリングマインドを高め、組織的な教育相談体制を一層充実させたいと考える。

地域との連携においては、地域支援センター「しせい」を中心とした、学校公開セミナーや学校支援等においては、一定の評価を得られている一方、地域の関係機関との連携においては、具体的な連携イメージや「切れ目のない支援体制」の構築については課題があると考えている。「社会に開かれた学校」を念頭に、地域自立支援協議会との一層の連携強化を図りながら、児童生徒が「地域で共に学び、生きる」教育の実現のためにさらに努力をしていきたい。

また、保護者や関係機関からは、校内研修やサービス倫理活動などの学校での取組を発信してほしいとの要望も多かった。今後はホームページや学校通信の定期的発行なども検討し、情報発信に努めていきたい。